

国外実態調査報告書

テーマ : フォルトナ・デュッセルドルフの経営実践を学ぶ
ゼミ名 : 渡辺 岳夫 ゼミ
調査日 : 2025年2月11日(火)～2024年2月19日(水)
調査先 : 【ドイツ】フォルトナ・デュッセルドルフ
授業科目名 : グローバル・スポーツビジネス・キャリア
参加学生数 : 10名(2年生)

調査の趣旨(目的)

世界のサッカーリーグの中で最も経営的に成功していると言われるブンデスリーガ。その2部所属のフォルトナ・デュッセルドルフと提携して、1週間ドイツに滞在し、そこにおけるサッカークラブ経営を実習し、下記の事項について理解する。

①クラブのフロント部門の具体的な業務内容 ②クラブのフィロソフィー ③ドイツ固有の会員組織(フェライン) ④スポンサー営業 ⑤チケットング ⑥CSR/地域貢献活動 ⑦ユースアカデミー

調査結果

研修内容: フォルトウナ DNA、ファン対応、セールス、CSR、ユースアカデミー、チケットングの担当者から直接レクチャーを受け、学生同士でのディスカッションを行った。また、デュッセルドルフ市庁舎を訪問し、見学させていただくとともに、同市のスポーツダイレクターのお言葉も頂戴した。さらに、デュッセルドルフ市と日本企業との経済的な関係についても学修することができた。研修期間中に行われたホームゲームでは、熱狂的なファンたちの姿を目の当たりにし圧倒されるとともにフォルトウナが築き上げてきたファン・地元企業との関係を身をもって感じることもできた。

研修1日目: 会長の Alexander Jobst (アレキサンダー・ヨブスト) 氏の歓迎の言葉でスタート! 研修会場は、普段の試合ではVIPルームとして使用されている特別な部屋をご用意頂いた。最初に行われたフォルトウナ DNA のレクチャーでは、フォルトウナ・デュッセルドルフの歴史や信念について学んだ。デュッセルドルフは欧州で3番目の日本人コミュニティがある都市であり、フォルトウナが日本人コミュニティと関係を築いてきた背景を知ることで、クラブに対しての理解がより一層深まった。次にファン対応のレクチャーでは、Kevin Hallebach 氏から、クラブとファンが共に歩みクラブの未来を作るという観点や身体的な障がいを持つファンに対しての取り組み、セキュリティ管理におけるファン対応の必要性を学んだ。スタジアム見学では、普段見ることのできない選手ロッカールーム、記者会見ルームなどを見学した。ホームとアウェイの施設の差を感じたり、実際に使われているロッカーに座ってみたり、この研修でしか味わえない体験に参加者からは喜びの声が上がっていた。また、フォルトウナは、デュッセルドルフ近郊の学校からもスタジアム見学を受け入れており、フォルトウナというチームが地域を大切にしている姿を目の当たりにすることもできた。

研修2日目：午前中のCSRのレクチャーでは、Claudia Beckers氏から、持続可能性を追求することを大事にしており、①エコノミー、②エコロジー、③社会貢献という視点でどのようなアクションを起こしているのか、について学んだ。ディスカッションでは、日本とドイツの課題解決に至る違いを明らかにしながら、CSRのアピールに関する是非や評価者に関する議論が活発に行われた。午後のチケットのレクチャーでは、Laura Schulze氏から、クラブ運営、選手獲得のためにチケット収入が非常に重要な収入源であること、チケット販売における工夫を学んだ。Away チケットを Away チームが販売すること、チケット代に公共交通機関の利用料が含まれていること、日本とは違うシステムが多数あり、参加者からは質問が相次いだ。

研修3日目：午前中はデュッセルドルフ市庁舎を訪問し、同市長とお話するとともに市庁舎を見学した。このような機会は滅多に得られないことであるとのことであった。また、デュッセルドルフ市は日本との経済的な関係が伝統的に深いため、そのような関係の具体的な内容やそのような関係が構築された経緯などの説明も受けた。午後のセールスのレクチャーでは、Daniel Schröer氏から、いくつものビッグクラブが周辺地域にある中で、フォルトゥナ独自のセールス戦略、持続的なパートナーシップを築くためのアプローチについて、それから本年度から導入された「Fortuna For All」に関するレクチャーを受けた。

研修4日目：スタジアムに移動し、フォルトゥナとヘルタの試合を観戦。試合ではスポンサーの看板がどのように出ているのかなど、前日までのレクチャーを振り返りながら観戦した。試合はフォルトゥナが2点を獲得し見事フォルトゥナが勝利し、研修生たちは大盛り上がりであった。

研修5日目：ユースアカデミーのレクチャーは、ユースアカデミーの施設にて、研修を行った。Jリーグのクラブハウスのような立派なつくりの施設に、一同驚きながら、「育成」という観点でクラブひいてはドイツサッカーを強くするという取り組みの一端に触れた。

